

チャレンジ！！オープンガバナンス 2024 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題名 (注1)	No.	自治体提示の地域課題名 庄内コラボセンターを核とした南部地域の活性化の実現に向けて	自治体名 豊中市
チームがつけたアイデア名(公開) (注2)	盆 BORN 庄内 (ボンボンしょうない)		

(注1)地域課題名は、COG2024 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題名を記入してください。

(注2)アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。これは自治体提示の地域課題名とは別です。

1. 応募者情報 下の欄のうち選択肢項目は右のドロップダウンで選んでください

チーム名(公開)	ミュージックコミュニケーション		
チーム属性(公開)	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生 ドロップダウン選択→	2. 学生	
チームメンバー数(公開)	9 名		
代表者(公開)	金指 貴音		
メンバー(公開)	岡田 亜瞳、小笠原 昌紀、仮屋 結菜、末瀧 こはる、田中 照瑛、西村 しずく、畑末 統吾、夜久 和佳奈		

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

＜応募の際のファイル名と送付先＞

- 応募の際は、ファイル名を COG2024_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、COG2024 のウェブサイトにある【応募フォーム】からアップロードしてください。

＜応募内容の公開＞

- アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者および公開に同意したメンバー氏名([メンバー一覧ページ](#)を参照)、「アイデアの説明」は公開されます。
- 公開条件について:
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY(表示)4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC(表示—非営利)4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja> および <https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
- 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開しません)
- この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

＜知的所有権等の取扱い＞

- 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
- 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

アイデアの説明が肖像権・著作権等を侵害していないことを確認してください。OK なら右欄の○を選択 →

OK

＜チームメンバー名簿：[メンバー一覧ページ](#)＞

チームメンバーに関する情報を該当ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

アイデアの説明は(1)アイデアの内容(活動)、(2)アイデアの理由(なぜなら)、(3)実現までの流れ、の三項目あります。それぞれ書いてください。必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、対象とする課題解決のために、**どのような社会的活動（サービス）を行うのかを具体的に示してください**。将来実現した場合に、**新規性があり、実践したくなり、魅力的でワクワクするようなアイデア**を求めます。その結果、**課題が解決され、社会に良い変化をもたらすことが期待**されます。**2 ページ以内**でご記入ください。

※応募チームとして**解決したい課題のポイント**を、以下にごく短く書いてください

<解決したい課題のポイント>

音楽を通して学生と地域住民および地域住民同士の関わりを増やす。

※以上の課題解決のために**『何』をするアイデアか、それを『だれ』が『だれ』に対して『いつ』『どこ』『どのように』行うのか**、受益者自身が主体的に関わる視点も視野に入れてわかりやすく書いてください。アイデアが具体的に実行される場面を想定し、説明をお願いします。

(参考)よいアイデアを生むには**関連データの分析に加えてデザイン思考によるアイデアを利用する人への共感(使う人の立場になってみる)**ことが大切です。

<提案するアイデアの内容>

・【誰が？】

作詞：地域の人々

作曲：大阪音楽大学ミュージッククリエイション専攻

コーディネーター：大阪音楽大学ミュージックコミュニケーション専攻

・【誰に向けて、どこで？】

庄内の様々なコミュニティ

・組織としてのコミュニティ(子育て支援センター、介護予防センター、小学校、こども食堂など**内容に紐づくコミュニティ**)

・地域コミュニティ(町内会やいわゆる地縁組織と呼ばれる**地域の場所に紐づくコミュニティ**)

・その他居場所のようなコミュニティ(酒場、パチンコ屋、風呂屋など)

・【いつ？】

ワークショップ：夏祭りで踊れるように3ヶ月程度前から開始。

夏祭りなどで盆踊りとして参加した人々が踊りを披露

・【どのように？】

様々なコミュニティに入り込んで、各所で唄を作るワークショップを開催。そこで集まったキーワードをあらかじめ作っておいた曲の上に歌詞として乗せて楽曲を作成。その成果を毎年の盆踊りの会場で発表する。

ワークショップを重ねる毎に市民の参加を増やし、唄が増えていき、盆踊りで踊る人を増やす。

その結果、多様な世代、組織に属する市民が関わる一つの大きな楽曲が作られてゆく。

(歌は1曲だが、歌詞がコミュニティごとに1番、2番、3番と増えてゆくことになる。)

【その具体的な活動として・・・】

1) 曲作りワークショップ

- ・ベースとなる曲は事前に大阪音楽音楽大学ミュージッククリエイション専攻に作ってもらう。
- ・ワークショップに参加した人々に庄内に関する歌詞やキーワードを書いてもらう。
- ・集まったキーワードの言葉をアレンジしながら、ベースの曲に当てはめていく。
- ・完成した曲はその場にいる人たちと一緒にレコーディング
- ・全体の様子を SNS ように撮影しておく



2) レコーディングした曲に合わせて振り付けを考える

- ・完成した曲を地域の盆踊りの振り付け師に持っていき、振り付けを考えていただく



3) SNS にアップする

- ・完成した盆踊りを Instagram や YouTube などの SNS で発信する
- ・完成した盆踊りだけでなく、このワークショップを広めるためにワークショップ全体の取り組みを SNS で発信する。

4) その成果を夏祭りの盆踊りの会場で発表する

- ・夏祭り(庄内神社、南部フェス) 櫓(やぐら)のある所で盆踊りを披露。

5) ゴールとして

- ・毎年庄内のイベントで親しまれる曲にしたい
- ・音楽(盆踊り)を通して人と人との関わりを増加させたい。



2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

次にアイデアを提案する理由(なぜ)について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

※このアイデアを提案する理由(なぜ)を書いていきます。

※先に書いた『何を』『だれが』『だれに対して』『いつ』『どこで』『どのように』というアイデアの内容を支えるために、『なぜ』このアイデアが有効で、実現する意味があるのか』を、上記のデータを使ってわかりやすく説明します。

①なぜ盆踊りなのか？

盆踊りは地域の多世代のコミュニティが繋がるコンテンツとして各地で実践されてきた。

近年はコロナ禍以降減少傾向にありつつも、盆踊りの復活、そして新たな形として生まれ変わるケースも多く見られる。令和に入り、長く子供と年配者のものだった盆踊りが見直され、あらたな試みが多数おこっている。例えば、神田明神ではアニソン盆踊り、JR 中野駅前では洋楽にあわせた盆踊りなどいずれも、DJ が音頭とりの役割を担い、盆踊りの漠然としたルールは多様化しつつある。

以下の理由から、私たちは盆踊りに注目した。

② 豊中市での取り組み

豊中市では、現在、豊中市内でも夏祭りは7月から9月の間に33件、南部地域でも7件ほどある。

豊中市の目指す方向としては、南部地域が有するポテンシャルを最大限発揮することで、にぎわいとゆとりのあるまちづくりを目指している。昨年4月にオープンした施設庄内コラボセンター(通称:ショコラ)は様々な市民を対象にした施設が充実しているだけでなく、コモンズとしてカフェや公共空地などを含めて、イベントを開催しやすい環境が整っている。また庄内コラボセンター(ショコラ)では毎年11月に「ショコラフェスタ」という地域のまつりがあり、多くの集客がある。

また、同地域にある大阪音楽大学は、ミュージックコミュニケーション専攻を中心に、地域との関わりが密接であり、周辺施設でのイベントを頻繁に行い、地域住民と学生とのコミュニケーションが生まれており、音楽を通じた、コミュニティ作りに私たちは大きな確信を得ている。

③裏付けとしての取り組み

市民と音大生による音楽の創作の取り組みとしては、実際に2024年12月3日、阪急清荒神駅で「作詞・作曲ワークショップ」を開催した。大阪音楽大学コミュニケーション専攻が企画、コーディネート、マネジメント全般を行い、作曲を大阪音楽大学ミュージッククリエイション専攻がおこなった。

2時間の開催時間で、駅前を通りがかった市民からアイデアを募り、30個程の歌詞フレーズアイデアが集まり、それぞれの想いが詰まったワンコーラスを完成させることが出来た。

後にSNSで完成版の曲を公開することで、ワークショップ参加者以外の市民にも曲を聴いてもらえるようにした。まさに我々チーム名(THE 庄内ミュージックコミュニケーションズ)の様に音楽を通じて人々と会話を



来るワークショップとなり音楽で人と地域を結び繋げることが出来た。学生、観光客、地域の高齢者など、多様な視点を持つ人々との交流の機会の必要性を再認識した。

④このイベントを通して

以上のことから、豊中市の目指す「にぎわい」と「ゆとり」を「音楽（盆踊り）」と「多世代交流」を絡ませることで、生み出すことができると考える。このイベントをきっかけとして、地域の特徴や特色を住民・地域従事者が能動的に表面化し、小規模コミュニティのつながりと、南部地域全体のつながりを同時に高めることができる。

盆踊りという既に定着された文化を利用し、一から構築していく楽しさと、世代・場所ごとに異なる歌詞の面白さが、より豊中市南部地域としてのコミュニティを強調させるだろう。

Blank area for content.

(3) アイデア実現までの流れ(公開)

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源(ヒト、モノ、カネ)**の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策を含め、**アイデア実現までの大まかな流れ**について、**2ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

※アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきます

1. 実現する主体:

大阪音楽大学ミュージックコミュニケーション専攻(ワークショップのコーディネート)
ミュージック・クリエーション専攻(楽曲の作成)

2. 必要な資源:

人:介護予防センターに来る高齢者
庄内さくら学園の小学生、中学生
子育て支援センターに来る親子
商店街や飲み屋の客
商店街や飲み屋の店主
外国人労働者 など
その他地域の人達

それぞれのコミュニティや地域でワークショップやヒアリングを実施
(WSは各回2時間 20-30名程度)

モノ:ワークショップ

(各コミュニティ毎にWSを開催。会場に楽器やワークショップ用のホワイトボードを用意)
庄内各地のお祭り
(毎年11月に行われるショコラフェスタや盆踊りが開催されているお祭りで披露)

カネ:ワークショップの会場費、謝礼(クリエーション専攻、振付師)、ノベルティグッズ代
(WS参加者向け)などは大学の演習にかかる予算から捻出

3. 実現に至るプロセス

【準備段階】クリエーション専攻がBGMやメロディーなどの大枠を作成。

【1年目】実験的な取り組み(庄内コラボセンター内でのワークショップとパフォーマンス)

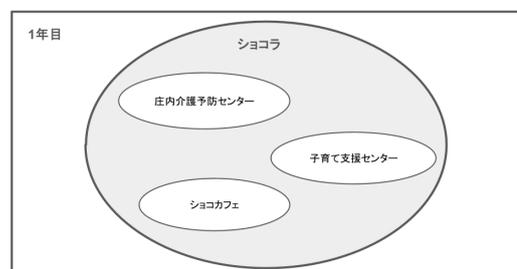
場所と対象:庄内コラボセンターでワークショップを開催(3回程度を実施)

- ・庄内介護予防センター(65歳以上の高齢者)
- ・子育て支援センター(幼児と保護者)
- ・ショコカフェ(学校終わりの小中学生)

ワークショップの方法:

- ・参加者にテーマに関するキーワードを書いてもらう。(自分のエピソードなどもOK)

【テーマ例】庄内介護センターでは、「この庄内の街の自慢したいところ」



2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

子育て支援センターでは、「庄内のこうなったらいいな」などの願望

ショコカフェでは、「学校の好きなどころ」 など

- ・ 集まった言葉(キーワード)を元に私たちが歌詞にし、曲を完成させる。そして、その場にいるお客さんもみんなで合唱のように歌いレコーディングし、レコーディングの様子を撮影をする。

【2年目】

- ・ 各地域の町内会、PTAなどを対象にした比較的小規模なコミュニティでのワークショップを開催。
- ・ 曲はそのまま歌詞を変える。メロディーも少し変えたりなどして新たに曲を作成。
- ・ それをまた SNS で発信する。
- ・ 夏～秋に開催される地域の盆踊りやストリートで披露

【3年目】

- ・ 飲み屋や風呂屋、ビリヤード、パチンコなどそれぞれ目的を持ったコミュニティを対象にワークショップを開催。
- ・ SNS で発信、盆踊りでは様々な市民が踊る。

⇒その後の流れ

こうして、毎年曲を作ってきて、シリーズ化することによって様々なコミュニティでの地域の特色を聞くことができ、音楽を通して交流することができると思われる。

